

## 令和5年度高知県職業能力開発審議会 議事概要

1. 日 時 令和5年8月2日（水）
2. 場 所 高知共済会館 大ホール「桜」
3. 出席委員 田中賢一 筒井早智子 野島幸一郎 青木雄治 大西孝枝  
楠瀬智都世 武政圭介 川上勲夫 川村進一 森山万里子 松木祥子
4. 議 事 第11次高知県職業能力開発計画に基づく進捗状況について  
高等技術学校の取組について

### 5. 内 容

#### (1) 開会

#### (2) 商工労働部長あいさつ

#### (3) 第11次高知県職業能力開発計画に基づく進捗状況について

○事務局から説明

○質疑意見など

#### (委員)

13 ページのものづくり名人による体験学習の実施について、目標を上回る件数でもものづくり名人を派遣しているところ、生徒からの感想はどうであったか伺いたい。

#### (事務局)

ものづくり名人は木工や建築、左官、機械など幅広い分野で派遣している。派遣後には学校と生徒からの感想を提出していただいているが、どの分野でも好評をいただいている。

#### (委員)

26 ページの技能五輪全国大会や各種技能競技大会について、選手を出場させるとなると練習にかかる時間や費用の負担が大きい。出場選手に対して現在行われている支援にはどのようなものがあるか。また、今後できそうな支援があれば教えていただきたい。

#### (事務局)

県の方では出場選手に対して副知事出席で激励会や入賞報告会を行うことで、選手のモチベーションアップを図っている。しかし、金銭面で直接的な支援は現在行っていない。

(委員)

金銭面の支援は今後も実施する予定はないか。

(事務局)

職業能力開発協会とも協議を行って検討していく。

(事務局 (中村校))

R4年度に広島県で開催された若年者ものづくり競技大会に選手を初めて派遣したところである。R5年度は静岡県で開催されており、木造建築科中卒コースの2年生が出場している。通常の木造建築の訓練カリキュラムに加えて別途補習訓練という形で大会で出題される課題の練習を大会2か月前から行っている。特別に費用をかけられるわけではないものの、指導員全体で協力して指導したり、励ましたりして大会に備えている。

(委員)

求職者の中の女性の比率はどれくらいか。女性に対する工業系の職業訓練のPRはどのような取組があるか。

(事務局 (高知校))

R4年度は本校で訓練している訓練生が67名のうち3名が女性。R5年度は83名の訓練生のうち3名が女性となっている。内訳としてはR4年度は自動車整備科に3名、R5年度は自動車整備科に2名、配管科に1名である。

(事務局 (中村校))

中村校の住宅リフォーム科では第2種電気工事士の資格を取得することができるが、R5年度は15名の入校者のうち9名が女性である。

(委員)

21ページの外国人労働者に対する在職者訓練の実施について、実際に訓練を終えて就職したときに言葉が十分に伝わらず、会話ができないという問題がある。積極的に会話が職場の中でできるような訓練は検討しているのか。

(事務局 (高知校))

外国人に対する在職者訓練をR3年度に初めて実施した際は、通訳として和歌山県から留学生に来ていただいたが、通訳者が例えばベトナムの方に対してベトナム語で通訳できるだけでは非常に厳しい面がある。訓練における専門的な用語や危険な箇所につい

での理解が未経験者の通訳では不十分なためである。そのため、通訳者が未経験の場合には訓練を事前に体験していただいている。昨年度実施したベトナムの方への訓練では在籍している会社の先輩が通訳についてくれたため、非常に上手く実施できたと考えている。今後の外国人向け在職者訓練でも引き続き工夫をして実施していきたい。

会社内でのことについては申し訳ありませんが、詳細を存じ上げていない。

(事務局 (中村校))

中村校でも本年度初めて外国人向けの在職者訓練を実施した。事前申し込み制で4名のベトナムの方に対して左官作業の検定試験対策の訓練を実施した。通訳については県内の企業にご協力いただけたため、無事実施することができた。

(4) 高等技術学校の取組について

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

学校訪問について、小学校を訪問対象とすることは難しいのか。保護者の方にも高等技術学校のことを知ってもらいたいと考えているので、中村校でのPTA 連合会の視察受入はよい取組だと思う。

また、ワクワク WORK キッズフェスについて、参加者は何名だったのか伺いたい。

(事務局 (中村校))

小学生の頃からの学校の周知については重要だと考えており、7月25日には四万十市の児童館の子ども16名を招き、ピカピカ団子作りを通じて漆喰や左官について体験してもらった。また、四万十市の社会福祉協議会や児童会と連携をとった取組の例としては、トンボ公園を散策するときの虫よけを兼ねて、帽子に飾ることのできるトンボの模型作りを子どもたちと行ったほか、小学校を訪問して大工仕事の紹介も行っている。

中学・高校の新卒者に向けた学校訪問も行いつつ、児童向けの活動を行っている。

(事務局 (高知校))

小学生向けのイベントとしてワクワク WORK キッズフェスを実施した。参加された小学生や保護者の方の意見を伺いつつ今年も実施していきたい。昨年度は児童と保護者それぞれ約60名が参加した。

(委員)

大学生や専門学生の就職活動の中でのヒアリングで、高知に対するプラスのイメージ

を持っている方が年々少なくなっている印象を受けている。その結果、高知の企業が人材不足になっているとの話を伺っているが、そんな中でもものづくりを好きになるきっかけ作りを小中高生に対して行っていると思った。その取組を通じて高知を好きになる取組も併せて行っていただくことをお願いしたい。

(委員)

技能五輪のようなものづくりの大会について、仮に入賞した場合、それが就職等に対してのインセンティブになるのか。

また、入校選考応募率について、意外と達成度が低い印象を受けた。高知県から YouTube を通じた発信をするとなると、高知県が地元であるとか、若者に人気の YouTuber の方が参加した配信をしたり、ものづくり分野について深く知ることでできる内容の動画を作成した方が子供でも楽しめる動画になるし、I ターン等で高知県への就職に関心を持つ方も増えるのではないか。(訓練の体験動画や職人と訓練生、一般の方が同じ作業をしたときの比較で職人や訓練生の技術の高さをアピールする等)

(事務局 (高知校))

技能競技大会の出場について、目に見える形ではないが、インセンティブにはなっていると考えている。

高知校では訓練生が楽しみながら訓練を受けている風景を動画にして配信しているが、確かに人気 YouTuber ほどの知名度はないので見ていただきづらい面はある。今後は県内出身者や人気の YouTuber とのコラボも検討していきたい。

また、労働局主催でメディアツアーを毎年開催している。会場をポリテクセンターや技術学校の持ち回りで開催しているもので、県内のマスコミを招待して訓練を体験していただき、各局で報道していただいている。

(事務局 (中村校))

技能競技大会には昨年、今年と選手を派遣したが、目に見えるインセンティブというよりは、緊張と戦いながら日々の訓練を通して技術を高めるといった人間的な成長に寄与できていると考えている。過去には技能五輪等で入賞した訓練生も在籍しており、現在は都会で大型の建物の建築に携わっている方もいる。

ほぼ毎日 Twitter (現 X) による情報発信を行っているが、YouTube による発信の経験はないため今後の課題として検討していく。

(委員)

ICT を活用した発信は反応がなければ流れていってしまうので、返信率に着目して取

り組むことも検討していただきたい。

(委員)

就職者の中でも県内企業へ就職した方の割合を教えてください。

(事務局 (高知校))

詳細なデータが今は手元にはないものの、訓練生には県内への就職を主に案内している。毎年1～2名は県外志望の学生がいる。

(事務局 (中村校))

住宅リフォーム科13名のうち、就職した者は全員県内企業へ就職している。左官エクステリア科は県内へ就職した者や、別の科へ再入学した訓練生もいる。木造建築コースについては、就職した者は全員県内企業である。

(委員)

中村校における生活相談員の実績が、延べの相談人数と相談件数を見ると1人当たり2～3回相談しているかと思う。週2日の配置ということだが、それで十分な体制であるのか伺いたい。

(事務局 (中村校))

生活相談員には週2日来ていただいている。予算的な兼ね合いもあって週2日としているが、様々な面からサポートいただけており、やむを得ない事情以外の中途退校が昨年度は0人であり、非常にありがたいと感じている。一般の職員と同じようにより多くの日数で配置することができると最もよいが、現在の週2日でも十分な効果を得ることができている。

(事務局 (高知校))

高知校では昨年度までは週4日、今年度からは週2日となっている。理由としては、昨年度までは産業カウンセラーの有資格者に来校いただいていたが、ここ数年、発達障害の診断を受けている又は疑われる訓練生が各科に在籍していることから、今年度から精神保健福祉士の方に来校いただくように変更した。精神保健福祉士の方の数が少ないからか、限られた日数しか来られない状況であるが、訓練生に対する支援は昨年度と比較して非常に手厚くなり、高い効果をあげていると考えている。

中途退校が多いのは自動車整備科や電気工事科であるが、目的意識が弱いまま入校する訓練生が見受けられる。入試のあり方を検討し、ミスマッチを減らせるような取組を

していきたい。

(委員)

中途退校してしまうのは訓練生にとっても非常にもったいないため、より多く相談員の配置が必要になった場合はぜひ声をあげていただき、さらなる活用を検討していただきたい。

(委員)

寮や生活環境、設備環境が近年徐々に改善してきている。このような施設を広く県民の方に知っていただくためにも、しっかりと広報に予算をかけていただき、引き続き周知に努めていただきたい。

(以上)